

第3回 国道343号笹ノ田地区技術課題等検討協議会の概要

- 1 日時 : 令和6年7月31日(水) 13時~14時
- 2 場所 : 盛岡市 岩手県水産会館 5階大会議室
- 3 出席者
(委員)
南 正昭 岩手大学 理工学部 教授 (座長)
井良沢 道也 岩手大学 名誉教授
野崎 弥 岩手県 県南広域振興局 土木部 一関土木センター所長
吉田 健一 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 大船渡土木センター所長
小野寺 淳 岩手県 県土整備部 道路建設課総括課長



4 内容

【第2回協議会意見を踏まえた調査結果等の報告】

- 冬期間の物損事故の発生、旅行速度の低下が見られ、冬期交通の安全確保が課題であることを再確認した。
- 現地踏査の結果、一部で不連続な亀裂の発達が見られる現道法面があるため、安全対策が課題であることを再確認した。
- 東日本大震災津波伝承館来館者へのアンケート調査の結果から、安全で円滑な観光ルートの確保が課題であることを再確認した。

【整備方針案の検討】

- 整備方針案としては、長大トンネルを含む現道南側バイパスルートが優位であるが、これまでの文献調査により、複雑な地質の課題が確認されていることから、技術的課題をより詳細に検討していく必要があることを確認した。

【技術的課題の整理】

- 複数の断層、破砕帯等の脆弱で複雑な地質の調査方針案として、現地で更なる地質調査(空中電磁探査※)を実施し、検討の精度を高めていくことを確認した。

※ 空中電磁探査: 電磁センサーを吊るしたヘリコプター等を用いて、空中から地層の比抵抗を測定し、断層、破砕帯等の位置など、土地の立ち入りを要さずに広範囲かつ大深度に調査を行うもの

5 次回協議会に向けた主な意見

- 大変分かり易いまとめをされたが、冬期間の物損事故や旅行速度の調査では、積雪深・気温など気象条件や路面状況を合せて整理すればなお良い。
- トンネルによる整備方針案は、冬期の気象条件を考慮すると合理的である。
- 空中電磁探査は、複雑な地質を広域的に調査できる適切な調査である。
- 現道南側バイパスルートの可能性については、文献調査により複雑な地質が確認されていることから、空中電磁探査により、地質状況をよく調べていただきたい。

6 今後の検討の進め方

- 今回いただいた意見の整理等を行った上で、次回の協議会では、地質調査(空中電磁探査)結果の報告と、それを踏まえた技術的課題の整理や、整備方針案の具体的な検討を行う。